

成人間生体肝移植におけるグラフト選択と術後成績に関する研究

九州大学病院、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科において2004年4月1日から2014年3月31日までに成人間生体肝移植(レシピエント年齢18歳以上)を受けた方を対象

【はじめに】成人間生体肝移植において用いられるグラフトは主に右葉グラフト、または左葉グラフトです。右葉グラフトと左葉グラフトの大きさの比はおよそ3対2であり、肝臓を提供するドナーからすれば右葉グラフトを提供するよりも小さな左葉グラフトを提供するほうが負担は少ないと考えられます。一方、移植を受けるレシピエントからすれば大きな右葉グラフトが望ましいと考えられます。グラフト選択はドナーとレシピエントの体格、コンピュータ計測上のドナー肝の左葉と右葉の比、ドナーの年齢、レシピエントの術前状態など総合的に決定されるべきですが、現在のところ明確な基準がないのが現状です。

【研究内容】2004年4月1日から2014年3月31日までに九州大学病院で成人間生体肝移植(レシピエント年齢18歳以上)を受けた321組のドナーとレシピエントを対象とします。該当するドナーとレシピエントの肝移植前臨床情報(ドナー年齢、ドナー性別、ドナー身長、ドナー体重、ドナー肝術前volumetryデータ、レシピエント年齢、レシピエント性別、レシピエント身長、レシピエント体重、レシピエント術前採血データ(総ビリルビン、アルブミン、クレアチニン、プロトロンビン時間)、実際に使用されたグラフトの種類)を診療録より取得します。以上のデータより該当する①レシピエントの術後合併症(Clavien grade3以上)の有無、②過小グラフト症候群発生の有無、③グラフトロスの有無を診療録より取得し、これらに対する危険因子を同定します。今回の研究は過去の診療情報を解析する研究です。

【患者さんの個人情報の管理について】個人を特定できる情報については匿名化し、厳重な管理を行います。本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

【研究期間】研究を行う期間は承認日から2016年3月31日です。

【医学上の貢献】この研究により成人間生体肝移植の治療成績向上につながるものと考えられます。

【研究機関長】

九州大学病院長 石橋 達朗

【研究計画書および研究の方法に関する資料について】

研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧することができます。ご希望される場合は、下記連絡先までご連絡ください。

【個人情報の開示について】

本人等からの開示の求めに応じて、保有する個人情報のうちその本人に関するものについてのみ開示を行います。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 医学研究院 外科集学的治療学講座

准教授 内山秀昭 (責任者)

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院 消化器・総合外科医局

Tel: 092-642-5466

内山 秀昭